

小樽市経済動向調査結果

1. 調査期間：2025年1月から3月
2. 調査対象：小樽市内の企業264社
3. 内 訳：製造業56、卸売業27、小売業44、運輸・倉庫業20、観光業45
サービス業39、建設業33
4. 回答企業数：165社（62.5%）
5. 調査方法：調査票によるアンケート

※DI（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・

好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

概 況

－主要3項目DIはプラスであるものの低水準、約半数の企業で従業員不足－

前年同期（2024年1月～3月）と比べた今期（2025年1月～3月）の状況
今期と比べた来期（2025年4月～6月）の予想

全業種における企業の景況感を示す業況判断DIは7.5で、前年同期比で9.1ポイント低下しました。主要3項目の業況DIは11期連続、売上DIは12期連続、採算DIは2期連続、いずれもプラス水準で推移しましたが、ほぼ全ての業種における経営上の問題点の上位3位までが、「材料・仕入価格上昇」、「人件費増加」、「従業員確保難」となっており、回答企業の46.7%で従業員が不足しています。

来期は、業況DI、売上DIで上昇、採算DIで低下が予想されています。また、従業員数は増加すると回答した企業が増えました。

製造業の業況DIは前年同期比で30.9ポイントの大幅な低下により▲16.7となりました。売上単価DIは11.1ポイント上昇しましたが、仕入単価DIも15.7ポイント上昇しており、採算DIは34ポイントの大幅な低下により▲22.9とマイナスに転じました。

卸売業の業況DIは9.1ポイント低下し0となりました。仕入単価DIは2.4ポイント上昇しましたが、売上単価DIも5.5ポイント上昇しており、採算DIは5.3ポイント上昇して5.3となりました。

小売業の業況DIは7.8ポイント低下して15.0となりました。客数DIは9.1ポイント低下しましたが、客単価DIが13.6ポイント上昇、仕入単価DIは3.2ポイント低下しており、採算DIは15.5ポイントの上昇により20.0となりました。

運輸・倉庫業の業況DIは51.3ポイントの大幅な上昇により31.3とプラスに転じました。運賃・運送料DI、保管料単価DIはともに低下しましたが、入庫DI、出庫DI、保管残高DIがそれぞれ大幅に上昇しており、採算DIは96.7ポイントの大幅な上昇により50.0とプラスに転じました。

観光業の業況DIは4.5ポイント上昇し51.4となりました。利用客数DIは23.6ポイント上昇しましたが、客単価DIが9.1ポイント低下し、仕入単価DIも4.8ポイント上昇しており、採算DIは15.3ポイント低下により31.4となりました。

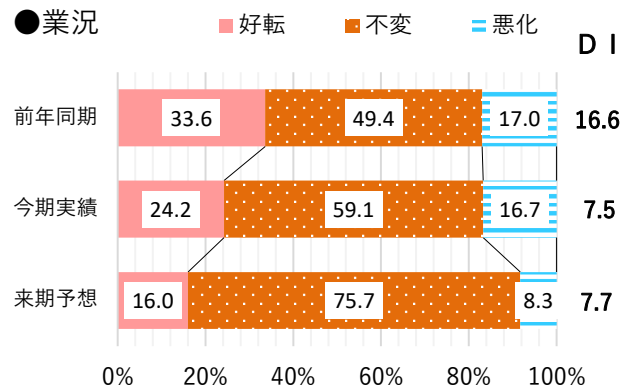
サービス業の業況DIは39.2ポイントの大幅な低下で0となりました。仕入単価DIは8.5ポイント低下しましたが、客単価DIが13.4ポイント、利用客数DIが29.6ポイントそれぞれ低下しており、採算DIは24.2ポイント低下により▲11.1とマイナスに転じました。

建設業の業況DIは33.1ポイントの大幅な低下により▲28.5とマイナスに転じました。受注額DIは3.9ポイント上昇し、材料仕入単価DIも1.6ポイント低下しましたが、契約残DIは8.1ポイント低下しており、採算DIは11.1ポイント低下しの28.5となりました。従業員不足を挙げた企業が66.7%と7業種のうち最も高い値になっています。

業況、売上、採算

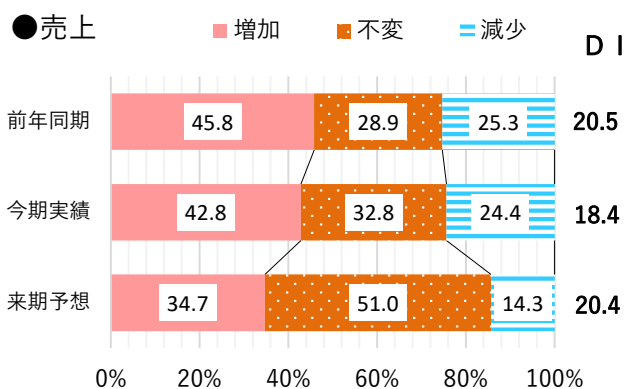
今期（2025.1～3）の業況判断DIは7.5で、前年同期（2024.1～3）と比べ9.1ポイント低下しました。

来期（2025.4～6）の業況DIは0.2ポイントの上昇で、ほぼ横ばいで推移すると予想しています。



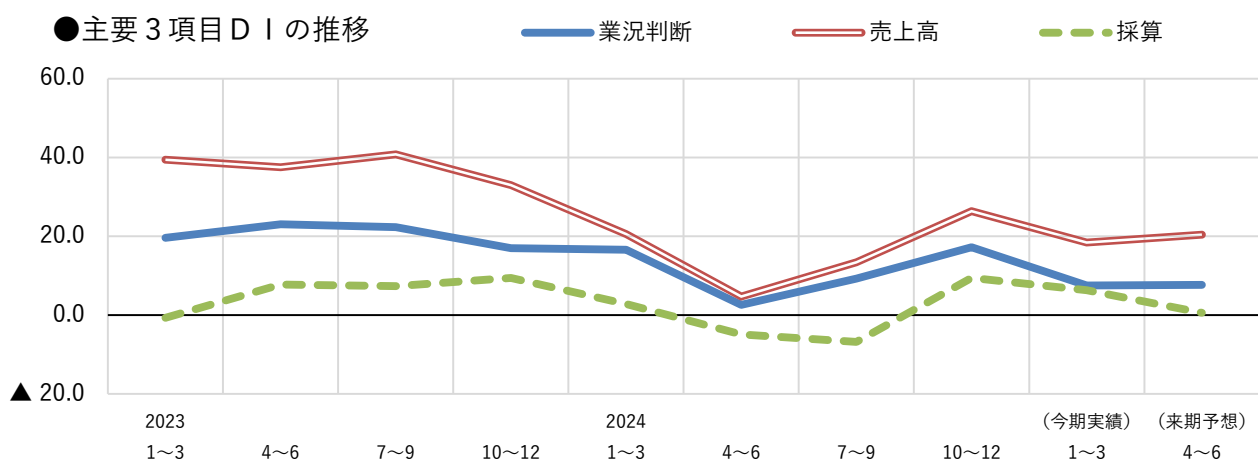
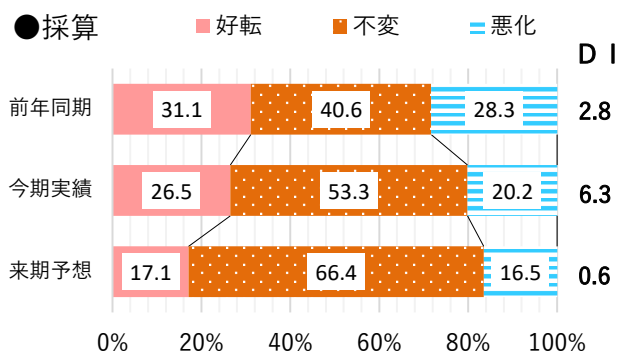
今期の売上DIは18.4で、前年同期と比べ2.1ポイント低下しました。

来期の売上DIは2.0ポイント上昇すると予想しています。



今期の採算DIは6.3で、前年同期と比べ3.5ポイント上昇しました。

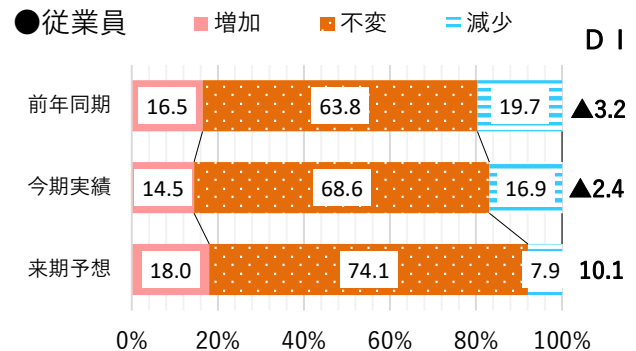
来期の採算DIは5.7ポイント低下すると予想しています。



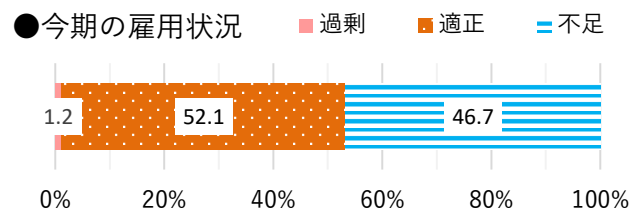
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲2.4で、前年同期と比べ0.8ポイント上昇しました。

来期の従業員DIは12.5ポイント上昇し、プラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は1.2%、適正であると回答した企業の割合は52.1%、不足していると回答した企業の割合は46.7%でした。



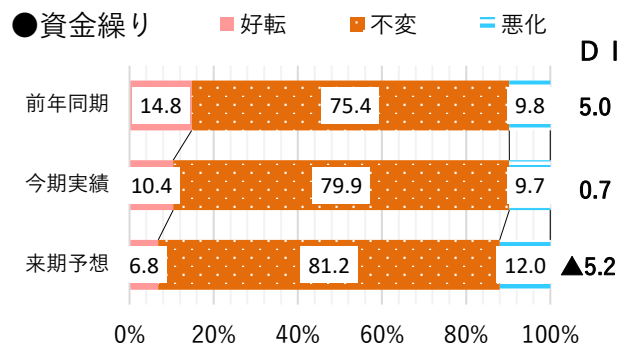
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、43.6%を占めました。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	1
	適正	11
	不足	14
不変だった	過剰	0
	適正	72
	不足	40
減少した	過剰	1
	適正	3
	不足	23

資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは0.7で、前年同期と比べ4.3ポイント低下しました。

来期の資金繰りDIは5.9ポイント低下し、マイナスに転じると予想しています。



今期の設備投資は、40.0%が実施と回答し、前年同期と比べ0.6%上昇しました。

投資内容は、1位が「車両運搬具・輸送機材」、2位が「生産設備」、3位が「OA機器」の順です。

来期は45.5%が設備投資を計画していると回答しています。

